令和5年度 美祢市立美東中学校 学校評価書 校長(矢田部敏夫)

学校教育目標

学校教育目標:ふるさと美東を愛し、夢に向かってたくましく生きる子どもの育成

-点突破〕 「あいさつ・礼儀」

現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

〇学習面においては、「主体的・対話的で深い学び」の実践を通した授業改善は、評価との一体化が重要である。適切な評価のもと、真の「確かな学力」の定着のために、今後も小中合同で計画的に校内研修を進めるこ とが求められる。また、学習のツールとしてのICTの活用も進めている。ICT機器、特にタブレット端末を学びのツールとして効果的に活用することとし、全教職員で試行錯誤しながらも授業改善や会議等のペーパーレス化 を積極的に推進していく必要がある。さらに、小中一貫教育校として、小学校教員と協議した各教科における「付けたい力」を分析、再検討し、9年間の学びのカリキュラムを改善していきたい。

〇心を磨く教育の推進においては、特に「主発問ひとつの道徳授業」を基本とした「考え議論する道徳授業」の実践に継続して全校で取り組んでいる。全教員がローテーションで授業を行うなど、全教員-徳教育の充実に努めている。人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成、思いやりの心情を育てる取り組みについては、外部の教育力を積極的に取り入れた活動を充実させることが肝要である。また、生徒の自己 有用感を高め、自分の適性に合った将来像をもてるよう、地域の行事や活動に積極的に参画させたい。社会をたくましく生き抜く力を育むために、地域等を巻き込んだ教育活動の充実をこれまで以上に図りたい。 〇小中一貫教育校としての2年目であったが、地域、保護者の理解と協力のもと、小学校とつながる9年間の、地域連携カリキュラムや合同行事、合同授業のカリキュラム、こころ、そだち、まなびの生活カリキュラムが進 展した。特に、小学6年生の合同の英語・理科の授業については、1学期から計画的に実施でき、児童の評価も上々であった。みとうこぶっちゃんネットを含む地域の学校支援体制の枠組みも充実させ、持続可能で、効果 的な小中一貫教育校としての歩みを着実に進めていかなければならない。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

諸検査の分析や学校運営協議会委員のご意見から、本年度の本校の課題は昨年度までと同様の、①学力の底上げと伸長 ②望ましい生活習慣の確立 ③地域を愛する心の醸成 の3点に集約される。 学力の向上については、最優先で取り組む継続的な課題で、これまでにない工夫した実践が求められる。また、人口減の課題のある本地域において、若年層のふるさとを思う心の醸成は地域全体の大きな願いであ る。そこで、次の事項に計画的に取り組んでいく。

①小中一貫教育校として、校区内小学校との連携を深化させ、9年間の系統立てた学びを進める。

昨年度作成された9年間の地域連携カリキュラムに基づいて教育活動を展開する。具体的には、毎週水曜日に引き続き、小学5年生と6年生を対象に合同授業を実践する。また、新学習指導要領に則った、新しい時代 こ必要となる資質・能力の具現化に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に全校体制で着実に取り組む。

②望ましい生活習慣の確立に向け、小学校や地域、保護者と連携するとともに、生徒会保健委員会としての取組を活性化させる。 生徒会活動から生徒自身の課題意識を喚起し、自分事として自分の習慣を見直し、改善する取組を促すこととする。また、望ましい生活習慣の習得を本校の重点取組目標に据え、小中で取り組む「生活改善カード」を 継続し、保護者や地域の協力を得ながら改善を進めていく。

③美東小中学校運営協議会や地域学校協働活動推進会議の充実を図り、小中一貫教育校としての取組を進展させる。

昨年度から新しく始まった美東小中学校運営協議会や地域学校協働活動推進会議の果たすべき役割を明確化し、学校と地域がこれまで以上に連携するシステムを構築する。地域の方々と協議を重ね、それぞれの立 場や役割を明確化し、持続可能な取組を実践する。子どもが地域の中で豊かに学べる教育環境を創り、「ふるさと美東を愛し、夢に向かってたくましく生きる子ども」を育成する手立てを講じていく。 ④部活動改革について、市教育委員会と連携し、地域・保護者・生徒への理解を深めながら進めていく。

| 4 自 | 1己評価 | 5 学校関係者評価 | | | | | |
|--------------|---------------------------------------|---|---|-----|---|---|----|
| 評価 領域 | 重点目標 | 具体的方策(教育活動) | 評 価 基 準 | 達成度 | 重点目標の達成状況の診断・分析 | 学校関係者からの意見・要望等 | 評価 |
| 教育課程・学習指導 | 確かな学力の育成 | ・「主体的・対話的で深い学び」の 実践(毎時間の授業評価) | 授業評価:総合点 4:3.5以上 3:3.0以上3.5未満 2:2.5以上3.0未満 1:2.5未満 | 3 | ・授業評価の中で「興味をもって取り組んでいる」の項目は3.3であった。昨年よりもコロナの状況も沈静化し、平常の学校教育活動が展開できるようになったことが大きいと思われる。 ・毎時間の授業評価は実践できなかったが、定期的な授業評価により授業改善が少しずつ進んでいる。 | ・毎時間の授業評価が出来るように、事前準備や時間配分に気を付けて下さい。 ・全国学力学習状況調査問題からの結果考察・対策をされていて良いです。 | |
| | | ・基礎学力の向上 ・自由進度学習の推進 | 全国学力学習状況調査問題 4:学力調査の定着度全国平均5ポイント以上 3:学力調査の定着度全国平均以上 2:学力調査の定着度全国平均以下 1:学力調査の定着度全国平均5ポイント以下 | 3 | ・正答率は学年によって差異はあるが、いずれの学年も、前年度との比較において向上している。生徒の興味関心を高める教材開発を含んだ授業改善が急務である。AIドリル学習も効果的に活用し、生徒一人ひとりの基礎学力の定着を図りたい。 ・小中一貫教育の推進に資する、自由進度学習をさらに充実させることで、授業改善し、学力向上につなげたい。 | ・個々の学習進度や理解度は異なるため、生徒一人ひとりの状況を把握して対応して下さい。 ・家庭学習の習慣は以前からの課題です。即効性のある解決法は見つかりませんが、保護者(育 | 3 |
| | | ・授業規律の徹底と家庭での学習 習慣の確立(学年×15分) | 小中で連携した家庭学習の定着 【学年×10~15分以上】 中1:70分~、中2:80分~、中3:90分~ | 2 | ・生徒の家庭学習の習慣についての肯定率は、あまり高いとは言えない。こぶっちゃん生活チャレンジを学期に1度行い、生活習慣や家庭での生活について見直す機会をもった。これからも継続していきたい。 | 友会)を巻き込んで、重点対策を 練って欲しいと思います。 | |
| 生徒指導 | 心を磨く教育の推進 | ・道徳授業の充実(指導と評価の 一体化) ・外部指導者による心の教育の充 実 | 全教員による道徳授業の実践とデザインシート (主発問ひとつ)の蓄積 評価方法の研究と評価の実践 全体計画・年間指導計画・別葉の作成 | 3 | ・道徳の授業についての充実度は高く、ほとんどの生徒が 人の生き方や優しさ・思いやりの大切さを考える機会があ ると答えている。「考え議論する道徳」を全教員で確実に実 施していきたい。 ・外部から著名な教育実践者を招聘し、授業実践の在り方 や命の大切さ等について講義・演習等を実施した。 | ・道徳授業の実践、成果は高く評価します。 ・「あいさつの美東」の伝統は良く継承出来ていると思います。生徒は自信を持って下さい。 ・生活習慣の確立は学校だけで | |
| | | ・主体的な生徒会活動の推進(あいさつ運動と地域貢献活動の充実) | 毎月10日を「みとうの日」とした、あいさつ運動 の実施 よさこいや吹奏楽演奏などの地域施設でのボ ランティアの実施 | 3 | ・あいさつについての肯定率は高い推移で落ち着いている。あいさつが上級生から下級生へよい伝統として受け継がれ、きちんとできることは本校の自慢だと多くの生徒が考えている。 ・吹奏楽部については、地域住民やプロの演奏家とコラボで出演し、好評を博した。 | は出来ません。家庭での導きが 大切ですので、今以上の取り組み 強化を望みます。 ・美東中スマホルール(今もありま すか?)をもう一度、保護者と共 有すべきかと思います。 | 3 |
| | 健やかな育ちの推進 | ・望ましい生活習慣の確立 | 規則正しい生活習慣の確立 「こぶっちゃん生活習慣チャレンジ」の充実 (保護者への啓発・小中合同発表会の実施等) | 2 | ・こぶっちゃん生活チャレンジを学期に1度行い、生活習慣や家庭生活について見直す機会をもった。この取組については保護者も参画しており、これからも継続していきたい、ホーロー貫教育にも資する活動が実施できた。・生徒の生活習慣は、まだまだ改善の余地がある。 | オラインさいと思います。 メディアコントロール能力の育成 は、全てに通じると感じています。 | |
| 保護者・地域住民との連携 | 小中連携・地域連携の充実と 小中一貫教育に向けての取 組の推進 | ・コミュニティ・スクール(みとうこぶっちゃん夢ネット)の充実 ・銅山祭り、火道切り、町民駅伝への参画 | 美東小中学校運営協議会(年3回)の実施 各行事への運営の参画 | 3 | ・美東小中合同の学校運営協議会を3回実施し、小中一貫校としての取組や施設一体型小中一貫校の実現に向けての議論が展開された。 ・協議会には、講師を招聘し、地域連携教育への理解がさらに深まった。 ・生徒は参加するだけでは無く、積極的に準備も行った。 | ・保護者や地域住民への周知や 連携は良くできていると評価しま す。 ・生徒が地域へ、地域が学校へ。 企画・運営の参画等、今後の継続 を望みます。 | |
| | | ・校区内4校の計画的な研修交流 や授業交流(交流授業・出前授業) ・一貫教育に向けた取組の推進 | 小学校5、6年生の合同授業の実施 小中での相互授業参観・研修会への参加 | 3 | ・小5・6年の英語と理科で3小合同授業を中学校教員が計画的に実施した。 ・互いの学校の研修会に参加できる教員で参加するよう声掛けを行ったが、全員がいずれかの研修に参加するまでには至らなかった。 | ・施設一体型に向けての議論がなされ、理解・連携が進んだと思います。 ・小中一貫教育校として、今以上の研修交流・授業交流を望みます。 | 3 |
| | | ・保護者・地域への情報発信 (ホームページ、学校だより、学級 通信等) | 学校評価アンケート「学校だより、学級だより、 ホームページ等を、よく見ている」の項目 4:肯定率 80%以上 3:肯定率 70%~80% 2:肯定率 60%~70% 1:肯定率 60%未満 | 3 | ・「学校だより、学級だより、HP等を、よく見ている」の保護 者の自合を維持し、引き続き、情報発信に努めるとともに、 見たくなるホームページ、学校だよりをめざしたい。 ・学校の情報発信を積極的に行うことで、学級の様子を保護者に伝えることを習慣化したい。 | 9 0 | |
| 人材育成·業務改善 | ミドルリーダーの育成 | ・プロジェクト型による校務分掌の 展開 | プロジェクト会議、及び提案の推進 | 3 | - 各プロジェクトが職員会議の中で、情報を発信する基盤ができあがっている。このシステムを更に有効活用したい。 学校評価に関するアンケート結果を各プロジャで分析・評価し、次の指導に活かす仕組みが定着している。また、プロジェクト方式とすることでOJTが促進されるとともに、業務改善の効果にも現れている。 | ・業務多忙の中、評価・改善を繰り返されていて良いと思いますが、目に見える結果を外部は求めてしまいます。更なる改善・実践を期待しています。 | |
| | | ・校内研修(互見授業)・校外研修 の充実 ・県外・市外研修の充実 | 一人年1回以上の公開授業の実施 | 3 | ・全ての教員による実施には至らなかった。日々の多忙な 業務もあり、計画的な公開授業や相互見授業ができな かった。 ・タブレット端末は授業の中でより効果的に活用された。持 ち帰りも習慣化し、宿題にもタブレットを使用したり、リモー ト授業もしたりすることで効果的に行えた。 | | 3 |
| | 業務改善加速事業の推進 | ・行事の精選と効率化、及び、業務の精選と業務アシスタントの活用・タブレット活用による会議のペーパーレス化 | 情報共有システムの構築とその活用 業務アシスタントの効果的な活用 ロイロノートスクールの導入 | 3 | ・校内LAN上の「情報共有システム」が有効に活用され、正確な情報伝達の時間短縮、検索効率に大きな成果を上げている。 ・業務アシスタントの効果的な活用で業務が縮減された。 ・タブレット端末と教育ソフトの導入・活用により、ペーパーレス化が図られ、業務の改善につながっている。 | | |

学校評価総括(取組の成果と課題)

- 【成果】 、スペース ・中学校教員による3小合同授業が外国語に加え、理科で実施できたことでや、主に小学校の算数で実践されている自由進度学習が中学校の数学科でも進展し、小中一貫教育に係る取組がの具体的に進んだこと。 ・毎週水曜日の合同授業により、3小1中の連携が深まり、中1ギャップの解消に効果があがり、欠席者数が激減したことと、英語科における基礎学力の定着が見られること。
- 心の教育等で外部の著名な教育実践者を招聘し、授業実践や教職員研修が充実したこと。
- 地域の行事等(銅山祭り・火道切り・美東町駅伝)に積極的に参画し、地域の活性化に貢献したこと。

・地域の公共施設における文化活動(吹奏楽部コンサート)を、地域住民やプロの演奏者の協力を得て実施し、地域の文化活動の継続と活性化に貢献したこと。
・平日の部活動も地域住民の参画を得て、地域移行が進んだこと。また、ソフトテニス部においては、地域クラブが設立されることとなり、新しい学校の在り方が示されたこと。
・ミドルリーダーを他県やかり指導者のもとに派遣し、研修させることで人材育成が充実したこと。

一昨年度まとめられた地域連携カリキュラムに則り、教育実践し、年度末に、各主任同士が集合し、取組の見直しを行えていること。

- 家庭学習の習慣化が十分に図られなかったこと。
- 一部の不登校生徒への対応に苦慮していること
- 小学校の研修会への参加について、昨年度より向上したものの、思うように進まなかったこと。
- -部の生徒については、スマホ依存やメディアコントロールについて課題が残ること。 教職員の構成上、一部の教員に負担過多になっていたこと。